

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-56898

(43)公開日 平成11年(1999) 3月2日

(51)Int.Cl.⁸

識別記号

F I

A 6 1 F 9/04

3 4 0

A 6 1 F 9/04

3 4 0

3 1 5

3 1 5

A 6 1 H 39/04

A 6 1 H 39/04

M

A 6 1 N 5/06

A 6 1 N 5/06

A

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全 5 頁)

(21)出願番号

特願平9-218484

(22)出願日

平成9年(1997) 8月13日

(71)出願人 597115370

有限会社クレオ

東京都荒川区東日暮里1-17-12

(71)出願人 391025501

株式会社丸木商會

東京都千代田区神田淡路町1-13

(72)発明者 大久保 博道

東京都荒川区東日暮里1-17-12 有限会社クレオ内

(72)発明者 平田 寿

東京都千代田区神田淡路町1-9 株式会社丸木商會内

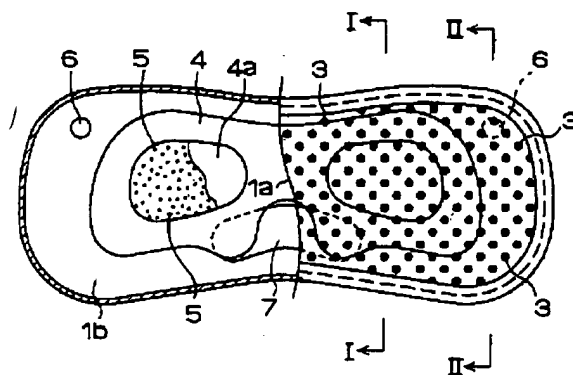
(74)代理人 弁理士 佐々木 功 (外1名)

(54)【発明の名称】 アイマスク

(57)【要約】

【課題】顔面から滲み出てくる汗脂によってマスク本体が汚れるのみならず湿り易いといった問題を有するものであり、衛生的見地からしても好ましくない。

【解決手段】体温を熱源として延赤外線を輻射する延赤外線輻射材3, 3...をマスク本体1を構成する布地の外表面に配設すると共に、両眼位置に対応するマスク本体1の裏面には押圧部4が形成されている。この押圧部4は、スポンジ、ウレタン等の発泡材や適宜弾性材からなり、孔空きの眼鏡形状に立体成形されており、目の周辺部を囲繞すべく裏面側に膨出する。更に、マスク本体1の所定位置に顔面の汗脂を吸収する吸脂材5が配設されている。この吸脂材5としては、例えば、真珠岩若しくは松脂岩を所望粒度に粉碎して急速に加熱、膨張させる気泡性砂状体が好ましく、これに親油処理を施すことにより、表面セルで毛管現象を促進し、自重の5~10倍の汗脂を吸収することができる。



PAT-NO: JP411056898A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11056898 A
TITLE: EYE MASK
PUBN-DATE: March 2, 1999

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
OKUBO, HIROMICHI
HIRATA, HISASHI

ASSIGNEE-INFORMATION:	
NAME	COUNTRY
KK KUREO	N/A
KK MARUKI SHOKAI	N/A

APPL-NO: JP09218484
APPL-DATE: August 13, 1997

INT-CL (IPC): A61F009/04, A61F009/04 , A61H039/04 , A61N005/06

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To eliminate such trouble that the conventional eye mask has a problem of not only the easy tendency of a mask body to staining by the sweat and fat bleeding out of the face but also easy tendency to wetting and is hygienically undesirable.

SOLUTION: Far IR ray radiating materials 3, 3... which radiate far IR rays with the body temp. as a heat source are disposed on the outside surface of a fabric constituting the mask body and a pressing part 4 is formed on the rear surface of the mask body corresponding to both eye positions. This pressing part 4 consists of a foamed material or suitable elastic material, such as

sponge or urethane, is three-dimensionally shaped to a holed spectacle shape and bulges to the rear surface side so as to enclose the peripheral parts of the eyes. Further, a fat absorptive material 5 which absorbs the sweat and fat of the face is disposed in the prescribed position of the mask body. This fat absorptive material 5 is preferably a foamable sandy material formed by pulverizing, for example, pearlite or pitchstone, to a desired grain size and rapidly heating the same to expand. This material is subjected to a lipophilic treatment, by which capillarity is accelerated in the surface cells and the sweat and fat of 5 to 10 times the own weight may be absorbed.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】少なくともマスク本体の裏面側に配設されたセラミック等の延赤外線輻射材と、目の周辺部を囲繞すべく面上に膨出された押圧部と、顔面の汗脂を吸収する吸脂材と、顫や目の周り等のツボを刺激する突起部とを備えてなることを特徴とするアイマスク。

【請求項2】前記マスク本体は、少なくとも鼻当部に金属板等の保形部材を折り曲げ自在に配設してなることを特徴とする請求項1に記載のアイマスク。

【請求項3】少なくともマスク本体の裏面側に、顔面の汗脂を吸収するための吸脂材を備えてなることを特徴とするアイマスク。

【請求項4】前記吸脂材は、マスク本体内に遊動自在に配設されていることを特徴とする請求項1又は3に記載のアイマスク。

【請求項5】前記吸脂材は、真珠岩若しくは松脂岩を所望粒度に粉碎して急速に加熱、膨張させた気泡性砂状体に親油処理を施してなることを特徴とする請求項1、3又は4に記載のアイマスク。

【請求項6】前記突起部は、マスク本体内に配設された延赤外線輻射材若しくは磁石からなることを特徴とする請求項1に記載のアイマスク。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、マスク本体で目を塞ぐべく顔に装着することにより、光線を遮り、眼精疲労を取り、睡眠に導く用途に使用されるアイマスクの改良に関し、更に詳しくは、目の疲れを癒すと共に、頭部の疲労感をも軽減することができ、快適な深い睡眠を得ることができるアイマスクに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、斯かるアイマスクとしては、例えば、特開平2-280750号公報に開示のものが従来例として既に周知である。この従来のアイマスクは、眼部を覆う布地部に、眼球上に位置するように延赤外線セラミック板を内封し、布地部に延設したベルト部によって頭部に装着自在としている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述した特開平2-280750号公報に開示のアイマスクにあつては、眼球上に位置するように延赤外線セラミック板を内封しているため、眼部の血行を良くし、目の疲れ、そして頭部全体の疲労感を軽減し得るといった利点を有するものの、顔面から滲み出てくる汗脂によってマスク本体が汚れるのみならず湿り易いといった問題を有するものであり、衛生的見地からしてもあまり好ましくはなかった。

【0004】更に、マスク本体の当接面がフラットになっているため、また、眼球上に延赤外線セラミック板が位置することも相俟って、眼前に装着した際、眼球を押

2

圧するような違和感を受けてしまうといった問題を有するものであり、快適な睡眠を導くことができなかった。

【0005】本発明は、このような従来の問題点に鑑みてなされたもので、違和感を全く与えることなく目の疲れを癒すと共に、頭部の疲労感をも軽減することができるのみならず、顔面から滲み出てくる汗脂によってもマスク本体が汚れたり湿ったりすることなく衛生的で気持ち良く使用できる有用なアイマスクを提供することを目的としたものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】上述の如き従来の問題点を解決し、所期の目的を達成するため本発明の要旨とする構成は、少なくともマスク本体の裏面側に配設されたセラミック等の延赤外線輻射材と、目の周辺部を囲繞すべく面上に膨出された押圧部と、顔面の汗脂を吸収する吸脂材と、顫や目の周り等のツボを刺激する突起部とを備えてなるアイマスクに存する。

【0007】また、前記マスク本体は、少なくとも鼻当部に金属板等の保形部材を折り曲げ自在に配設してなるのが良い。

【0008】更に、前記吸脂材は、マスク本体内に遊動自在に配設するのが良く、延いては、真珠岩若しくは松脂岩を所望粒度に粉碎して急速に加熱、膨張させた気泡性砂状体に親油処理を施してなるのが良い。

【0009】また、前記突起部は、マスク本体内に配設された延赤外線輻射材若しくは磁石からなるのが良い。

【0010】このように構成される本発明のアイマスクは、少なくともマスク本体の裏面側に配設されたセラミック等の延赤外線輻射材と、目の周辺部を囲繞すべく面上に膨出された押圧部と、顔面の汗脂を吸収する吸脂材と、顫や目の周り等のツボを刺激する突起部とを備えてなることによって、違和感なく目と頭部の疲れを癒し得るのみならず、顔面から滲み出てくる（分泌される）汗脂をも吸収し得ることとなる。

【0011】また、前記マスク本体が、少なくとも鼻当部に金属板等の保形部材を折り曲げ自在に配設してなることにより、使用者の鼻の形態や大きさに応じてフィットすべく調整し得ると共に、鼻への押圧次第で軒防止にも役立つこととなる。

【0012】更に、前記吸脂材をマスク本体内に遊動自在に配設すれば、満遍なく、かつ、効率よく汗脂を吸収し得ることとなる。

【0013】また、延いては、真珠岩若しくは松脂岩を所望粒度に粉碎して急速に加熱、膨張させた気泡性砂状体に親油処理を施せば、表面で毛管現象を促進し、自重の5～10倍の汗脂を吸収し得ることとなる。

【0014】更に、前記突起部が、マスク本体内に配設された延赤外線輻射材若しくは磁石からなることにより、顫やツボを単に刺激するのみならず血液の循環をも促進し得ることとなる。

【0015】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施の一例を図面を参照しながら説明する。図中Aは、本発明に係るアイマスクであり、このアイマスクAは、図1に示すように、所定大きさのマスク本体1と、該マスク本体1の長手方向両端に装着されたベルト2とを備えている。

【0016】前記マスク本体1は、図2若しくは図3に示すように、所定形状の基板1aと、該基板1aの表面に被装された外被材1bとを備えている。この外被材1bは、肌に優しい布地及び／又は吸湿性のある布地、不織布等から縫製されており、少なくとも顔に当接される方の面（以下、単に裏面という）には、セラミック等からなる延赤外線輻射材3、3…が満遍なく点在されている。

【0017】この延赤外線輻射材3、3…は、マスク本体1を構成する布地の外表面に、直径5mm程度の円形体になるべく塗布又は印刷されており、体温を熱源として延赤外線を輻射するものである。

【0018】因に、延赤外線輻射材3、3…としては、例えば、磁鉄鉱とFe₃O₄の粉体とをセラミック粉体とを混合して焼成し、一旦、セラミック状に硬化させた後に微粉末に加工し、結合材として適宜のバインダーを混入して形成した磁鉄鉱入り延赤外線輻射材を印刷等の適宜方法で点在密着するようにプリントしても良い。

【0019】また、両眼位置に対応するマスク本体1の裏面には、図2に示すように、押圧部4が形成されている。この押圧部4は、スポンジ、ウレタン等の発泡材や適宜弾性材からなり、孔空きの眼鏡形状に立体成形されている。

【0020】従って、この押圧部4は、図3に示すように、マスク本体1内すなわち前記基板1aと外被材1bとの間に配設されることにより、目の周辺部を圍繞すべく裏面側に膨出するものである。

【0021】更に、マスク本体1の所定位置には、顔面の汗脂を吸収する吸脂材5が配設されている。この吸脂材5は、前記押圧部4にて形成された環状の凹部4a、4aの内側に揺動自在に配設されている。

【0022】この吸脂材5としては、例えば、真珠岩若しくは松脂岩を所望粒度に粉碎して急速に加熱、膨張させてなる気泡性砂状体（商品名：パーライト）が好ましく、これに親油処理を施すことにより、表面セルで毛管現象を促進し、自重の5～10倍の汗脂を吸収することができる。

【0023】更に、マスク本体1の長手方向両端には、顔のツボを刺激するための突起部6、6が内設されている。この突起部6、6は、延赤外線輻射材若しくは磁石からなるものであり、顔のツボを単に刺激するのみならず、血液の循環をも促進するものである。

【0024】また、前記マスク本体1の鼻当部には、折り曲げ自在な保形部材7が配設されている。この保径部

材7は、金属板等の適宜素材からなり、使用者の鼻の形態や大きさに応じてフィットすべく折り曲げ調整できるものである。

【0025】しかも、斯かる保形部材7は、鼻を押圧すべく折り曲げ被装させることで、鼻孔内の息の（呼吸）流れを変えるべく刺激し、鼾防止にも役立つものである。

【0026】このように構成される本発明のアイマスクAは、ベルト2を介してマスク本体1を眼前に装着するだけで、前記押圧部4が目の周辺部を圍繞すべく顔面に当接されると共に、満遍なく均等に点在された延赤外線輻射材3、3…と突起部6、6とが目の回りのツボを刺激するものである。

【0027】例えば、客主人（顔の側面の中央にある骨の窪み）、せい明（目頭からやや鼻よりにある窪み）、四白（目の中央から真下におろしたところで眼球を丸く取り囲む骨の上にある窪み）、絳竹空（眉尻の少し先で眼球を取り囲む骨のすぐ上にある窪み）太陽（眉尻と目尻の中間から指幅二本分耳寄りの窪み）その他、攢竹、瞳子りょう、承泣等を刺激するのみならず、血液の循環（血行）をも促進するため、目と頭部の疲れを癒すことができるのである。

【0028】また、マスク本体1には、吸脂材5が配設されているため、マスク本体1下の顔面から滲み出てくる汗脂を吸収してくれるため、長時間使用してもマスク本体1が汚れたり湿ったりすることが解消され、衛生的見地からしても、気持ち良く使用できる。

【0029】しかも、マスク本1の鼻当部には、保形部材7が折り曲げ自在に配設されているため、使用者の鼻の形態や大きさに応じてフィットすべく自由に折り曲げできることは云うまでもない。

【0030】尚、本発明のアイマスクは、本実施例に限定されることなく、本発明の目的の範囲内で自由に設計変更し得るものであり、本発明はそれらの全てを包摂するものである。例えば、本実施例では、突起部6が顔を押し刺激できるようにマスク本体1の左右側面に設けてあるが、これに限定されることなく、前述したような四白、絳竹空等の目の周りの特有なツボを押圧できるように配設しても良い。

【0031】

【発明の効果】本発明は上述のように構成され、少なくともマスク本体の裏面側に配設されたセラミック等の延赤外線輻射材と、目の周辺部を圍繞すべく面上に膨出された押圧部と、顔面の汗脂を吸収する吸脂材と、顔や目の周り等のツボを刺激する突起部とを備えてなることによって、血液の循環（血行）を促進し、違和感なく目と頭部の疲れを癒すことができるのみならず、顔面から滲み出てくる汗脂をも吸収できるため、マスク本体が汚れたり湿ったりすることがなく衛生的で、かつ、気持ち良く使用できるといった効果をも奏する。

5

【0032】また、前記マスク本体が、少なくとも鼻当部に金属板等の保形部材を折り曲げ自在に配設してなることにより、使用者の鼻の形態や大きさに応じてフィットすべく自由に調整できると共に、鼻への押圧次第で鼾防止の効果にも役立つといった効果を奏するものである。

【0033】更に、前記吸脂材をマスク本体内に遊動自在に配設すれば、満遍なく、かつ、効率よく汗脂を吸収でき、また、延いては、斯かる吸収材を真珠岩若しくは松脂岩を所望粒度に粉碎して急速に加熱、膨張させてなる気泡性砂状体に親油処理を施せたものを使用すれば、表面セルで毛管現象を促進し、自重の5～10倍の汗脂を吸収することができるといった効果を奏するものである。

【0034】更に、前記突起部が、マスク本体内に配設された延赤外線輻射材若しくは磁石からなることにより、顔やツボを単に刺激するのみならず血液の循環をも促進でき、目の周りの皮膚をも活性化させることができる等の効果を奏する。

【0035】このように本発明のアイマスクは、目の疲れを癒すと共に、頭部の疲労感をも軽減することができ、快適な深い睡眠を得ることができる他、鼾防止にも

6

なり、また、衛生的で、かつ、構成が単純であるため、大量生産に適し価格も低廉なものとして需要者に供給することができるなど、本発明を実施することはその実益的価値が甚だ大である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るアイマスクを示す斜視図である。

【図2】同アイマスクの要部を示す一部切欠裏面図である。

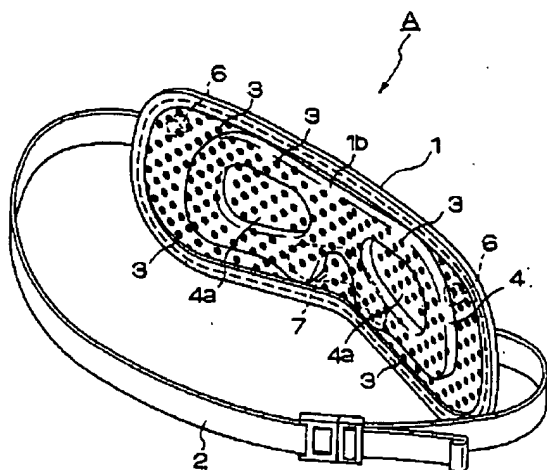
【図3】同アイマスクのI-I線断面図である。

10 【図4】同アイマスクのII-II線断面図である。

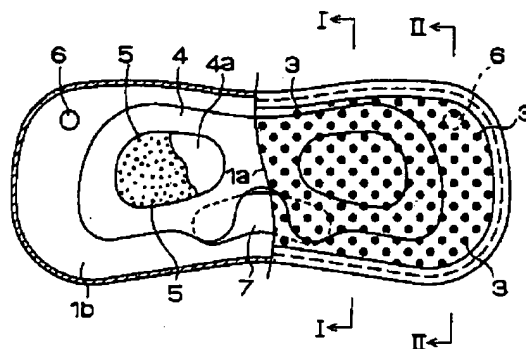
【符号の説明】

- 1 マスク本体
- 1 a 基板
- 1 b 外被材
- 2 ベルト
- 3 延赤外線輻射材
- 4 押圧部
- 4 a 凹部
- 5 吸脂材
- 6 突起部
- 7 保形部材

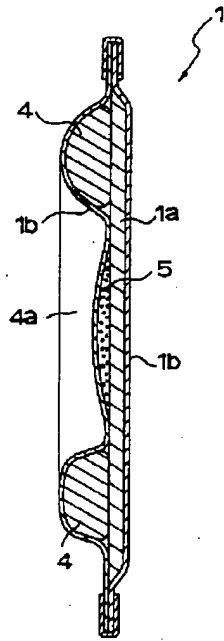
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

